論　文

日本語多読に関するビリーフ
ー 理系留学生を対象に ー

兵藤 桃香[1]

[1] 一般教育科ー日本語（Liberal Arts- Japanese, National Institute of Technology, Nagaoka College）

Beliefs About Extensive Reading in the Japanese Language
- Based on the Survey Results of Science Major International Students -

Momoka HYODO[1]

Abstract

The purpose of this study is to research learners' beliefs about extensive reading in the Japanese language education. Four participants answered the questionnaire. The results suggested that the participants thought that it is important to do extencive reading activities because they have to read many types of Japanese in their daily and school life. Moreover, we found that they hope that they have a chance to do extensive reading activities during class time. At the same time, this paper will report on extensive reading activity examples outside class hours in our school. It seems that it is difficult for students to keep high a level of motivation. Thus, it is important for teachers to support the notion of having extensive reading activities as voluntary.

Keywords : *Extensive reading (ER), Japanese language education, Learners' beliefs*

１．はじめに

語学を学ぶ中で様々な学習方法があるが，その内の一つに多読がある．多読活動は，これまで主に英語を学ぶ学習者の中で定着してきたが，近年ではその効果や実践報告を受けて，日本語教育でも徐々に注目されつつある．多読を行うことで，読むことに対する動機付けや読書に対する苦手意識を軽減させる，また語彙力の強化や読解力の向上に繋がるなど，様々な効果が研究報告や実践報告として複数挙げられてきている[1),2)3),4)]．しかし，実際に学習者が多読に対してどのようなビリーフを持ち，活動に取り組んでいるか，というような報告は少なく，これから研究が必要な分野であると感じている．ここでいう「ビリーフ」とは，言語学習における，学習者の信念のことを指す．さらに，これまでは研究の対象も，文系の大学生であることが多かった．そこで，本研究では，理工学を学ぶ若年層の日本語学習者の日本語多読活動に関するビリーフを調査することにした．高専に入学する留学生は，日常生活で使用する日本語と並行して，専門性の高い用語も習得する必要がある．多岐に渡る分野の日本語の語彙を習得でき，さらにレベルの目安がある多読本で試してみることにした．近年，高専は国際化に注力しており，新た

な事業も始まっている．若年層で入学する留学生は，従来の3年次編入の学生よりも，日本語の事前教育が乏しいことが課題となっている．また，日本語初級の学生は，読むことへの抵抗がある，と熊田&鈴木[1)]でも報告されているため，日本語を読むことに慣れるためにも，多読活動を取り入れることにした．

また，実際に本校で 2020 年 3 月から 8 月までの半学期の間に，授業外で実施した日本語多読活動の実践例の紹介をする．その後，多読活動開始前に行った多読活動に関するビリーフの質問紙での回答結果を報告をする．そして，今後もこの活動を続ける上で，さらによりよい活動とするために，結果から考えられる改善点や課題を挙げ，検討し論じていく．これから国際化を目指す高専は，メキシコやタイをはじめ海外にも高専を新設していく．今後，日本の高専へ留学に来る機会も増え，多様な留学制度が導入されるだろう．そこでの日本語教育は喫緊の課題として挙げられ，今後の高専内での日本語教育を充実させることに期待できる．

２．研究背景と先行研究

２．１　多読とは

第二言語での多読活動は，これまで特に英語で活発的に行われてきており，広く活動が定着し，研究も数多く行われてきている．多読活動の研究の中で，代表的な一人として挙げられる，Day & Bamford[5)]は，辞書を使用せず，第二言語で学んでいる言語を楽しんで読むことの効果を指摘している．その中で，多読活動の実践として10から成る要素を挙げている．彼らは，多読を行うことで，読解力と共に，語彙力の向上にも効果的であると述べている．そのため，英語学習での多読活動にとどまらず，様々な第二言語学習の方法の一つとしてこれまで多読活動が行われてきた．

２．２　日本語教育での多読

日本語教育の中でも，近年徐々に多読の必要性を報告する研究や実践報告が増えてきた．特に，実践報告は授業時間内で行うものが多く，学習者の自主的な取り組みとして結び付けられるものはそれほど多くないため，学習者の自主的な活動として着目し，研究を行うことが求められる．

実際に多読活動を行う上で４つのルールがあり，粟野他[6)]では，次のように示している．

表-1　レベル別読み物　語彙・字数・文法項目の目安

レベル	語彙	字数/ 1話	主な文法項目
0 入門	350	～400	現在形，過去形，疑問詞，～たいなど（基本的に，です・ます体）
1 初級前半	350	400～1500	
2 初級後半	500	1500～2500	辞書形，て形，ない形，連体修飾，条件，理由など
3 初中級	800	2500～5000	可能，命令，受身，意向，推量など
4 中級	1300	5000～10000	使役，使役受身，伝聞，など
5 中上級	2000	8000～25000	機能，複合，慣用表現，敬語など

1. やさしいレベルから読む
2. 辞書を引かないで読む
3. わからないところは飛ばして読む
4. 進まなくなったら，他の本を読む

このように，英語教育での多読ルールと大きく差異はなく，進まなくなったら別の本を選び，また読み始めるように指導した．近年ではこの4つのルールを修正し，活用した実践報告も見られるようになってきた．そして，教師の役割としては，教えず，多読が進むように支援者に徹することが大切であると，考えられている．

日本語教育での多読本の代表的なものの『にほんご多読ブックス』でのレベルは，上記の**表-1** の通りである．

多読読み物で定められているレベルを，JLPTのレベルに換算すると，0～1は，N5程度，2は，N4程度，3～4はN3程度，4～5は，N2程度とされている．レベル4でも，一般図書を読むレベルには達しておらず，難しいと考えられているため，さらに上のレベルの読みものが制作された．その後，レベル5が追加され，中上級レベルの学習者でも多読に取り組めるようになった．上級レベルになると，語彙の制限などなく，新聞や雑誌など様々な物から学ぶことが期待されている．

２．３　学習者のビリーフ

言語学習を進めるの中で，その成功を左右する様々な要因があるが，その中の一つにビリーフがある．これは，「信念」などと訳されていることも多く，教師は学習者のビリーフを知ることで，より効果的な指導が可能となる，とDörnyei & Ushioda[7)] では提言している．Lightbown & Spada[8)]では，ビリー

フは学習者の強い信念や意見が行動に表れ，それらは過去の学習経験から形成される，と指摘している．このように，多様な背景を持った学習者の個々に対応できるようにするのは，難しいが教師はこういった学習者のビリーフを知ることで，教師自身が持つビリーフとの間のギャップを小さくすることが可能であるため，学習者の言語習得がより効果的に行われると考えられている．

２．４　日本語での多読活動・先行研究

近年では，日本語教育の中でも多読活動が注目され，徐々に研究や実践報告数も増えてきている．熊田&鈴木[1)]では，日本語の多読活動を，学生の日本語レベル別に紹介をしている．そこでは，また，作田[2)]では，多読の利点と問題点として，次のことを指摘している．まず，利点として，元々読書嫌いの学生も自律的な読み手となった例もある，と報告した．また，画像やパフォーマンスなど視覚的な刺激がある場合，学生は読書欲がよく働く，との指摘もあった．また，読んだ本に関し，簡単に発表するブックトークの時間は，日本語で説明するものであるが，もっと話したかった，などの好意的なコメントが多く寄せられた．そこで，学生がアウトプットすることで，満足感に繋がったのではないか，との考えがある．逆に，問題点としては，やさしいレベルの本を読むことに納得できない学生がいることをあげている．

日本語の多読活動として最も有名なのは，NPO法人日本語多読研究会があり，年に数回セミナーを開催し，日本語教育の中での多読普及に注力している．

２．５　長岡高専での授業時間外の多読実践

多読に関する注意事項を伝え，実際に授業外で自主的に活動を行ってもらった．実際に，この日本語多読を実践したのは，初中級レベルの留学生4名である．教材は，アスク出版の『*レベル別日本語ライブラリー　にほんごよむよむ文庫*』を主教材としたが，興味のある本も可，とした．

まず，好きな本を選んでもらい，読み進めてもらう．次に，読み終えたら，多読記録用のシートに必要事項を記入してもらった．多読記録用のシートは，粟野他[6)]でも示しているものを少し改変したものを作成した．多読を実施した日付やかかった時間や字数なども積み上げ方式で記入してもらった．実際に使用した記入項目を**表-2** にまとめ，示した．

途中で活動の進捗状況を確認した際に，学習者により，実施状況に大きくばらつきが見られたため，

表-2 多読記録シートの項目見本

No.	月/日	レベル	文字数	タイトル	おすすめ度		感想
					×△○◎	パス・完読	

自主的な活動から，週に数回行っている補講の開始15分程度を読書の時間として，多読を実施した．レベルの低いものから読んでいたので，だいたい15分で1冊読み終えていた．学校での課題や行事などが多々あると，やはり読む回数も減少する傾向にあった．

２．６　本校実施の日本語多読活動の問題点

本校で実施された多読活動の問題点として，以下のことが挙げられる．

1. 多読時間の確実な確保が難しい
2. 多読本に限りがある

まず，授業内など決まった時間がないため，完全に学習者の自主性に委ねられる点である．学生により，実施した時間数や読んだ冊数には大幅なばらつきが生じた．元々，読むことに抵抗がある学生は，読んだ冊数も少ない．これは，単に日本語能力のレベルで決められるものではなく，学生の性格や，多読学習に対するモチベーションなど様々な要因が関係しているようであった．

そして，多読本に限りがある点も，活動を長期的に続けるときに難しさを感じる点である．英語教育での多読本の冊数と比較すると，圧倒的に少ないため，長期的渡り継続して実施することが難しくなってくる．また，興味のない内容の本が多い場合，読むものがなくなるということが懸念される．

３．調査概要

３．１　調査協力者

理工学を学ぶ若年層留学生を対象に，日本語多読に関するビリーフのアンケート調査に参加してもらった．本研究で協力してもらった留学生の人数は 4 名で，実際に授業時間外で日本語多読活動を行った学生に依頼をした．彼らの名前は仮名で表記した．平均年齢は，16.5 歳である．日本語のレベルは，初中級から中上級レベルで選抜した．留学生の読んだ冊数や読むためにかかった時間など，参加者の基本

表-3　協力者基本情報

仮名	日本語学習歴	冊数	累計時間	累計語数
アー	2年	1	7分	500
カー	2ヶ月	6	87分	33,00
サー	1年	28	170分	14,082
ター	2ヵ月	5	83分	2,200

情報は上記表-3 にまとめた通りである．平均冊数は10冊，多読を行った平均時間は87分であることが分かった．また，今回の協力者の中には，本を読み終える前に途中でパスした者はおらず，全員が全ての本を完読していたことが，彼らの記録からわかった．

３．２　調査方法

質問紙の作成は，全て日本語を使用し，簡単な日本語で書いた．その際，Apple[9]を参考に，質問項目を決定し，全部で 34 項目から構成される．質問内容は，多読に対するイメージや教師の役割などに関してのビリーフを問うものである．なお，6 段階評価の選択式とし，

1「全くそう思わない」
2「そう思わない」
3「あまり思わない」
4「少しそう思う」
5「そう思う」
6「とてもそう思う」

とした．

質問項目に関しては，一覧を表-4 に示した．また，質問紙には記述欄も設け，多読活動に関する意見や要望など自由に記述できるようにした．

アンケートの実施時期は，多読活動の開始前に行った．

また，倫理問題として，研究に関する説明とあわせ，アンケート実施における個人情報の扱いに関することや，成績には一切関係がない旨の説明をし，協力者からの合意を得た上で調査を実施した．

４．結果・考察

ここでは，多読活動前に行った，日本語多読に関するビリーフの質問紙調査の結果を質問項目とあわせて示す．それぞれの質問項目に対する，平均（M）と標準偏差（SD）を示し，表-4 に結果を示す．また，その結果を踏まえ考察し，今後の多読活動の支援の在り方を検討する．

４．１　質問紙に関する回答結果

表-4　質問紙の回答結果

質問項目	M	SD
1. 日本語を読むことは面白い	5	0
2. 日本の小説は簡単に読める	4.25	0.83
3. 日本語を読むことは日常生活に必要	6	0
4. 日本語を読むことは将来の夢に必要	5.25	0.83
5. 日本語の小説を読むことが難しい	5	0.71
6. 日本語を読むことに自信がある	4.5	0.5
7. 高専の授業が分かるために，多読は必要	5.25	0.43
8. 日本語の授業で多読を少しやる時間があればいいと思う	5.5	0.5
9. 日本語の多読をすることで本を読む習慣がつくと思う	5.25	0.43
10. 日本語を読むことに苦手意識がある	4.75	1.09
11. 多読は言葉を覚えるのに役立つと思う	4.75	1.09
12. 多読から日本文化も学べると思う	5.25	0.83
13. 多読活動は面白い	5	0.71
14. 多読で読んできた文字数が増えると嬉しいと思う	5	0.71
15. 多読をする時に，定期的に成長できたかチェックしたい.	5.25	0.43
16. 多読をすることで日本語全体のスキルが上がると思う	4.5	0.5
17. 多読をすることで新しい言葉を学べる	5	0.71
18. 高専での授業や宿題がわかるようになるために多読が必要だと思う	4.75	1.09
19. 日本語を読むことが好き	4	0
20. 正しい日本語をたくさん読むことは必要だと思う	5.25	0.83
21. 多読をする時，日本語のまま理解するようにしている	5.25	0.43
22. 多読の時，日本語で物語を楽しめる	5.25	0.43
23. 難しい内容の日本語でも理解できるようになりたい	5.5	0.87
24. 多読をするのは時間の無駄だと思う	2	1
25. 日本語を読むスキルはいい成績をとるために必要である	4.75	0.829
26. 単語を覚えることは，日本語を	5	0.707

勉強する中で一番大切だと思う		
27. 多読をする時，タイ語に変えて読んでいる時がある	4.75	0.433
28. 多読をする時わからない言葉がある時もイメージして読んでいる	5	0
29. 多読をして日本語が上手になるまで時間がかかることだと思う	4.25	0.43
30. 多読をすれば高専の授業が分かるようになると思う	4.75	0.829
31. 多読がどこまでできるようになったかレベルが数字などでわかるものがあるといいと思う	5	0.71
32. 読むスキルは，高専生活で大切である	5.75	0.433
33. 読むスキルは，いつもの生活で大切である	5.75	0.43
34. 読むスキルが高専生活で一番大切である	4.5	0.5

表-4 の結果より，質問1では，今回全員が比較的，日本語を読むことは面白いと回答しているので，日本語を読むことへの抵抗感はそれほど高くないのではないか，ということが言える．

次に，質問 3・32・33 から，日常生活では，日本語を読む活動は重要であると考えていることが明らかとなった．その理由として，高専での生活では，主な伝達事項や連絡手段はメールや紙面であり，読んで得る情報が大半を占める．また，授業でも，主に日本語で教科書や問題文を読むことが多く，課題等の指示も読んで実行するものが多いためだと思われる．

質問 8 では，多読活動への期待，ということで，多読時間を授業内に設けてほしい，というが高かった．これは，やはり学生が主体的に数か月間，モチベーションを高く維持し継続するには難しい，というような表れであると言える．そのため，教師は初中級の学生に対しては，授業内で多読活動の時間を週に数十分でも設け，読む習慣をつけられるような手助けをした方がいいと思われる．

また，質問 31 でも賛成が多数だったため，自分のレベルや成長を客観視でき，評価できるような目安があると，学習者自身で目標の設定やモチベーションも維持しやすくなるのではないかと感じた．

反対に，今回反対意見の多かったものとして，質問 24 がある．彼らは，やはり読むことが重要と考えているため，多読の時間は無駄だとは考えていないことがわかった．教師は，学習者のやる気を継続させるために，多読活動の機会を与えることや，多読本の準備，定期的に進捗状況を確認するなど，活動が円滑に行われているかサポートする必要がある．

４．２　記述回答結果

記述では，多読に対する意見や活動への要望や活動を始めるにあたっての意気込みなどを自由に書く欄を設けた．そこで集まったものをそのまま引用し，**表-5** に示す．

記述回答から，学習者それぞれの興味・関心にあった本を自由に選び読み進めることが学習者自身も重要だと考えていることがわかった．そのような機会を与えられるよう，教師は教材の準備をする必要がある．

アンケート結果からも分かるように，日本語で小説を読むことは難しいと感じている一方で，難しい内容の日本語でも理解できるようになりたい，と思っているため，語彙のコントロールをされている多読本で小説を読めることはニーズに合っているだろう．語彙のコントロールをすれば，学習者自身で多読本を作成することも可能であるため，そうした取り組みも今後は取り入れていきたい．

４．３　質問紙の結果を踏まえて今後の課題

質問紙で得られた回答を基に，今後多読活動を実施するにあたり，留意すべき点を検討し，以下に示す．

・日本語の授業時間内に多読活動時間を設ける
・教師が進捗状況を把握し，授業時間外でも活動が行えるようになるためにサポートをする
・高専入学前の事前教育の段階から始める

以上の 3 点のことを配慮し，多読活動を今後も長期的に続けられる機会を与えられるよう工夫を凝らし

表-5　記述回答結果

仮名	内容
アー	各人の興味深い話題や熱心している話題について，本を読むことはあれば，よいです．
カー	海外から人気な多読を読みたい．
サー	多読の活動に楽しい本をいっぱい読めて，楽しかったです．読むとき単語の勉強になりますから，いいと思います．今は簡単な本しか読まないが，難しい本も読んでみたいですから，言葉の意味を書いてる本もいいと思います．
ター	私はたくさん本を読んだ方がいいと思う．

ていく．そして，留学生達が高専の授業だけではなく，多読活動を通し，日本文化や歴史に興味を抱き，日本語学習を進められるよう支援をしていく．

５．終わりに

本研究では，理工学を学ぶ留学生を対象に，授業時間外での多読の実施と多読に関するビリーフを調べた．人数が少なく限定的であったため，今後は対象の人数を拡大することも検討していきたい．また，質的データ収集も視野に入れ，長期的にデータを集めていきたい．また，管見の限りでは，理工学を学ぶ日本語学習者を対象とした多読活動に関する実践報告や研究数は少ないため，1 年や数年に渡る長期的なデータを収集し，日本語学習に与える影響を調査していきたい．

また，実践的な取り組みでは，多読でも音声が収録されているものもあるので，今後はそういったものも活用しながら，留学生の日本語学習が充実するよう，学習方法の提案として取り入れていきたい．これから，高専入学前の事前教育や留学の多様性に伴い，新しい多読活動を模索していく．

参考文献

1) 熊田道子，鈴木美加：「日本語教育におけるExtensive Reading（多読）の実践」，東京外国語大学留学生日本語教育センター論集，41，pp.229-243，東京外国語大学留学生日本語教育センター，2015.
2) 作田奈苗：「大学で実施する日本語多読授業の実際―実践報告―，日本語の多読の効果の検証と学習モデルへの位置づけ―成果報告書」，pp.29-34，2017. http://www.tufs.ac.jp/ts2/personal/suzuki_mika/files/4_TadokuJyugyouJissai.pdf，（参照2020.10.5）
3) 高橋亘：日本語多読研究に向けた基礎研究―多読活動の類型化の試み―，言語・地域文化研究，22，pp.369-386，2016.
4) 松井咲子，三上京子，金山泰子：初級・中級日本語コースにおける多読授業の実践報告，ICU日本語教育研究，9，pp.47-59，2012.
5) Day, R. & Bamford, J.: Extensive reading in the second language classroom. Cambridge University Press. 1998.
6) 粟野真紀子，川本かず子，松田緑編著：「日本語教師のための多読授業入門」，アスク出版，pp.16-20，2012.
7) Dörnyei, Z., & Ushioda, E.: Teaching and Researching Motivation: Second Edition, PEARSON, 2011.
8) Lightbown, P.M., & Spada, N.: How Languages are learned: Fourth Edition, Oxford University Press. 2013
9) Apple, M.T.: Extensive reading and the motivation to read: A pilot study, Doshisha Studies in Language and Culture, 8(1), pp.193-212, 2005.

（2020. 10. 5 受付）